8　芸術（書道）

学校番号	１０１５

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書道Ⅱ」　（教育出版）						
副教材等	くらしのペン習字　（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学んだ楷書・行書・仮名の書を発展させて、篆書・隷書・草書に至る様々な書体を体験し、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる創作作品を完成させ、校外の展覧会で展示することにより達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	・篆書、隷書 ・うちわ作品作り	・篆書、隷書の逆筆の筆遣いを学ぶ。	○		○	○	a：古典の書と表現方法に関心を持ち、意欲的に身に着けようとしている。 b：篆書、隷書の字形や用筆などの特徴をつかみ、表現を工夫している。 c：篆書、隷書の字形や用筆などの特徴をつかみ、表現することができる d：篆書、隷書の字形や用筆などの特徴をつかみ、表現することができる。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
前期期末	・うちわ作品作り	・篆書、隷書の用筆を生かしてうちわ作品を創作する。 ・マーブリングによる彩色をする。 ・仕上げた作品に押印し鑑賞する。	○	○	○		a：篆書、隷書の創作に意欲的に取り組み表現の構想から完成に至るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b：感興や意図に応じた表現を構想し、個性的な表現を工夫している。 c：感興や意図に応じた表現を構想し、個性的な表現を工夫することができる。 d：古典に基づく表現と個性的な表現について理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期中間	木彫	・表現意図に基づいた漢字創作 ・木彫の手順を踏まえた作品作り ・相互鑑賞会	○	○	○		a：刻字に興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b：刻字の手順に従い、刻し方や彩色など刻字の特徴を生かした表現を工夫している。 c：刻字の準備と手順について理解し特徴を生かした表現をすることができる。 d：刻字の準備と手順を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期期末	漢字の書（五書体の復習から色紙作品制作へ） ・鑑賞レ	・五書体の復習 ・漢字四字熟語色紙作品創作、押印、鑑賞	○ ○	○		○	a：五書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）の美とその表現技法について再度関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b：各書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c：逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d：文字の成り立ちに興味を持ち、五書体を知り、そのよさや美しさを味わっている。 a：鑑賞を通じて、作者の意図や表現の	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品 鑑賞レポート

	ポート	・大阪府高等学校書道展					工夫、よさや美しさに共感する気持ちを持ち、文章にまとめることができる。	